

応用情報技術者 講評

【総評】

前回に引き続き、今回も午前試験は難しめで、午後試験は素直な設問が多かった印象です。特に午前の試験は前回よりも難易度が高くなった印象で、午前を通過できない受験者の割合は高まるのではないかと予想されます。

【午前】

今回的第一印象は「見慣れない問題が多かった」ということです。応用情報技術者試験からの過去問題流用数は 34 問であり、過去問題の流用が少なかった前回に比べると大幅に増加しました。しかし、流用元のボリュームゾーンであった 3 回前～5 回前(今回の試験では令和 5 年秋期から令和 4 年秋期が該当)の試験からは 7 問しか流用されておらず、9 回以上前(令和 2 年度以前)からの流用が 22 問と大幅に増えています。旧 I 種(平成 11 年)の問題までも流用されていました。流用された問題を見ても、頻繁に出題される頻出テーマというわけではなく、出題頻度の低いテーマが散見されました。ここ数年の試験の中でも、特に過去問題演習の効果が得にくかった印象です。

新規テーマの出題数は 14 問と、前回と同様に多く出題されています。全体的に知らないと解けない難問が多かった印象で、「午後では出題されたことがあるが、午前では初出題のテーマ」も目立ちました。午後の必須分野である情報セキュリティのストレッ칭は見覚えのある受験者も少なくないでしょうが、選択分野であるプログラミングの AVL 木や経営戦略のビジネスモデルキャンバスは、木の回転操作や VP の意味など、深い知識を要求する難問でした。

(午前・午後を通じて新規のテーマ)

- | | | |
|----------------|--------------------------|------------------|
| ・ Swagger | ・ ワイドカラム | ・ MTU |
| ・ セキュリティクリアランス | ・ カオスエンジニアリング | ・ ブルーグリーンデプロイメント |
| ・ DX 認定制度 | ・ Activity-Based Costing | ・ フリーミアム |
| ・ エッジ AI | ・ コンピテンシーモデル | |

(午後で出題実績のある新規テーマ)

- | | | |
|---------|---------|--------------|
| ・ AVL 木 | ・ ストレッ칭 | ・ ビジネスマネジメント |
|---------|---------|--------------|

さらに、今回の試験では「テーマ自体は既出だがより深い内容を問う難問」が多かった印象です。例えば、BASE64 は今までに問題文や誤り選択肢で何回か登場したことがあります、BASE64 の内容自体が問われたのは今回が初めてであり「6 ビットを 8 ビットにエンコードする」ことを知らないと解けません。同様に、OS コマンドインジェクションの問題では HTTP リクエストに含まれる cat が OS を操作するコマンドであることを抜く必要があり、EVM の問題でも TCPI(残作業効率指數)という概念が初めて登場しました。著作権の問題でも、最近話題となっている生成 AI による生成物の著作権が問われています。このほかにも cookie の

secure 属性、保守性の定量評価、時系列モデル、資金決済法における暗号資産など、新規テーマとしてはカウントしていないものの、論点としてはほぼ新規テーマと考えてもよい問題が目立ちました。以上のような理由により、今回の試験は見慣れない問題が多く、難しかったと評価します。

【午後】

午後の出題テーマは、次のとおりです。

問題番号	出題分野	テーマ
問 1	情報セキュリティ	サイバー攻撃への対策
問 2	経営戦略	企業の成長戦略
問 3	プログラミング	スライドパズルを解くプログラム
問 4	システムアーキテクチャ	ビルエネルギー・マネジメントシステムの非機能要件
問 5	ネットワーク	社内 LAN の障害対応
問 6	データベース	販売管理システムの構築
問 7	組込みシステム開発	電動キックボードのシェアリングシステム
問 8	情報システム開発	エラーハンドリング
問 9	プロジェクトマネジメント	CCPM を用いたプロジェクトのスケジュール管理
問 10	サービスマネジメント	容量・能力管理
問 11	システム監査	勤務管理に関するシステムの監査

必須問題である問 1 の情報セキュリティでは、ランサムウェアによる攻撃を題材に、デジタルフォレンジックスやリバースブルートフォース攻撃、バックアップデータの扱いなどが問われていました。題材も論点も今までに出題されたことがあるので、過去問題対策をこなして攻撃の原理や想定される被害などを理解できていればそれほど難しい印象はありません。文章記述の設問でどのように解答するかに迷った方がいるかもしれませんが全体的には素直な構成で、難易度はやや易しめの印象です。

選択分野に目を向けると、テクノロジ系で全体的に素直で解きやすい問題が多かったように感じられます。特に、問 3 のプログラミングでは 2 次元の盤面を扱うプログラムが出題されており、上下左右の方向を意味する配列の操作は、定番ともいえるものです。問 6 のデータベースでも、LEFT OUTER JOIN や ORDER BY など、定番の論点が目立ちました。それ以外の問題でも出題実績のある論点がいくつか登場しており、過去問題演習の効果も得やすかった印象です。強いて言えば、問 7 の組込みシステム開発や問 8 の情報システム開発では、事例を正確に把握しづらい印象がありますが、それでも 6 割以上の得点を得ることは可能でしょう。

ストラテジ系及びマネジメント系についても、問 2 の経営戦略で成長マトリクスやクロス SWOT が、問 9 のプロジェクトマネジメントでベンダー選定やアローダイアグラムが出題されるなど、既出のテーマが目立ちました。強いて言えば問 10 のサービスマネジメントで容量・能力管理が出題され、計算や数値の比較ではなく協議すべき内容や実施すべきことが多く問われていた点が印象的ですが、本文中の字句を用いて解答するよう要求する設問も多く、問題文をじっくりと読み込めば 6 割以上の得点を得ることは難しくありません。ストラテジ系及びマネジメント系では全体的に文章記述の設問が多いので解答表現をまとめるのに苦労した受験者もいたことでしょうが、それでも難しかったというわけではありません。

午後試験全体としてはそれなりに知識も要求されるので、難易度としては標準的と評価できそうです。

以上

この講評の著作権は TAC(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

Copyrights by TAC Co.,Ltd.2025